

高齢者施設における新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のためのアンケート調査の結果について

アンケート調査について

本市では、令和5年2月に施設で陽性者発生時の対応内容を把握するために、アンケート調査を実施しました。新型コロナウイルス感染症は5類に移行しますが、ウイルスの性質は変わらないため、各施設における感染拡大防止対策や、陽性者発生時の取り組みは、益々重要となります。

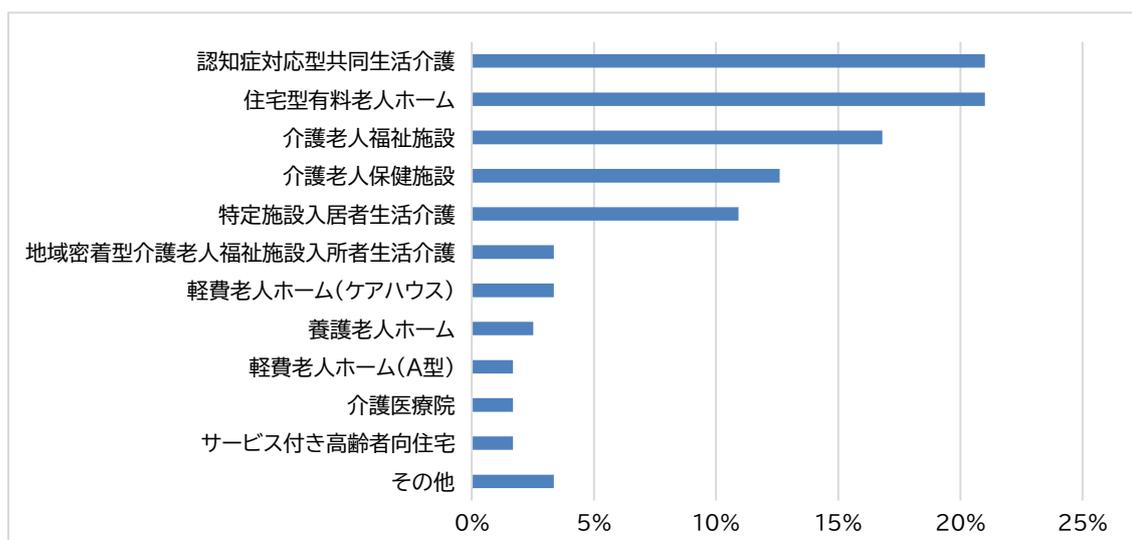
回答いただいた施設の第8波における状況や、取り組みを知っていただき、施設の体制づくりや備えにご活用ください。

回収結果

- ・ 調査対象:市内の高齢者施設のうち第8波(令和4年12月1日から令和5年1月31日)に陽性者の入居者を対応した292施設
- ・ 調査期間:令和5年2月10日から令和5年2月22日

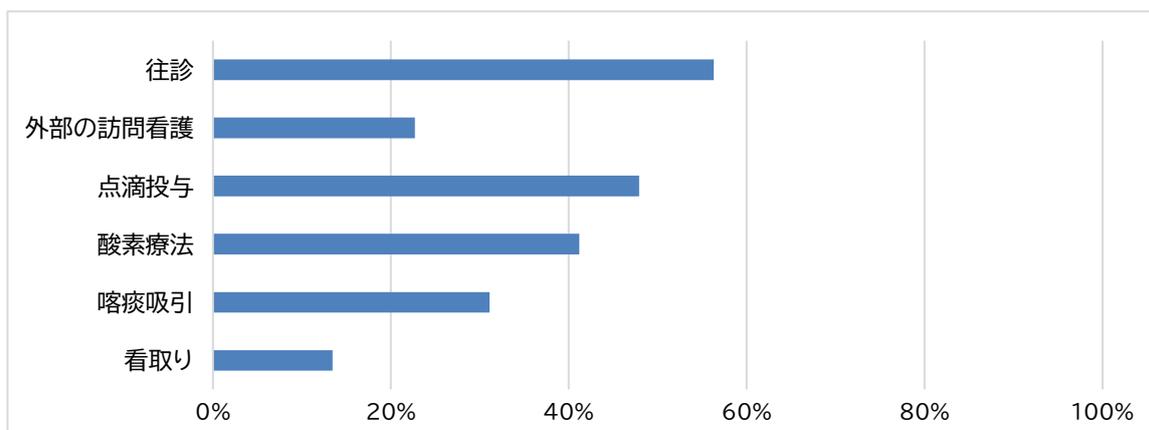
対象	回答施設数	回収率
292施設	119施設	40.7%

- ・ 回答施設におけるサービス種別の割合



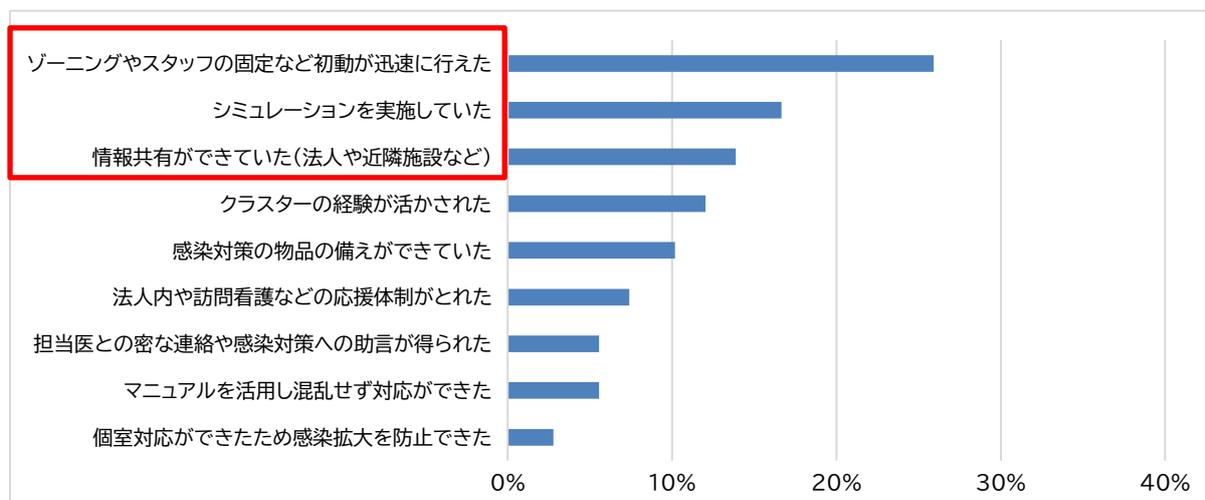
アンケート結果

1. 第8波において施設内で対応した内容について(対応有の施設割合)



往診については、半数以上の施設が対応していました。また、施設内で点滴投与や酸素療法を実施している施設が多い傾向にあります。担当医や看護師(外部の訪問看護等を含む)との連携が必要となるため、施設の状況に応じて医療体制を整えておくことが大切です。

2. 陽性者発生時に施設の対策としてうまくいった点・工夫した点について

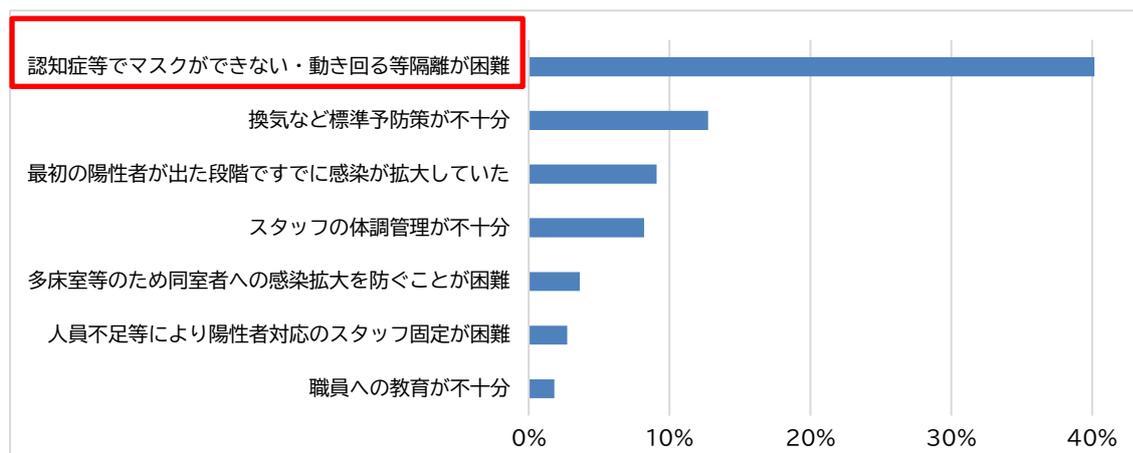


うまくいった点については、ゾーニングや感染対策の徹底・スタッフの固定など初動が迅速に行えたことで感染拡大を防ぐことができたという意見が多くありました。

陽性者発生時のゾーニングや、スタッフの役割分担の想定他に、担当医との時間外の連絡手段や家族への説明など、さまざまな場面を想定して具体的にシミュレーションをしていたという意見もありました。

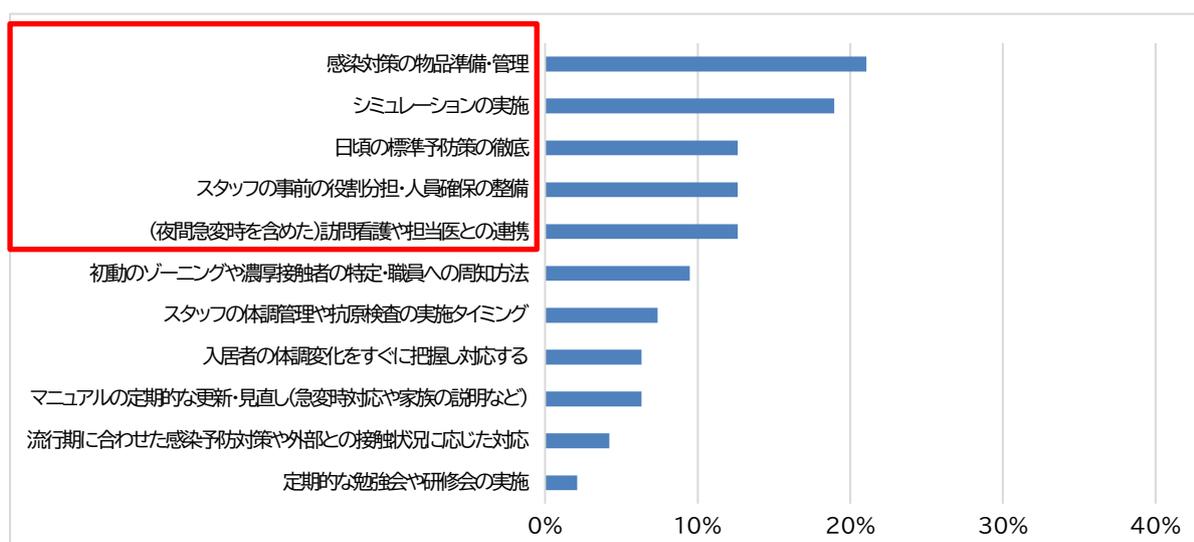
日頃から法人内で情報共有をしていたため、陽性者が発生した際に法人内の応援が得られやすかったとの意見がありました。また、過去にクラスターを経験したことで陽性者対応の動き方がわかるため、混乱せずに対応できたという施設もいくつかありました。

3. 感染拡大の要因として考えられることについて



感染拡大の要因としては、半数以上の施設で認知症等でマスクができない・隔離ができない・感染対策が難しいとの意見がありました。認知症の方への対応が難しく、感染が広がってしまうことを実感している施設が多いです。

4. 今回の陽性者対応を振り返り、今後平常時から備えておきたいことについて



今後備えておきたいことについては、物品は事前に確保していても、陽性者発生時は想定を超えたとの意見が多く、物品を備えておくことの必要性を感じている施設が多いです。平時から、ゾーニングや着脱訓練・スタッフの役割分担など、シミュレーションの必要性を強く感じたという意見がありました。

新型コロナウイルス感染症対応のポイント

アンケート調査の結果から、今後施設で新型コロナウイルス感染症の対応をする際のポイントとなるのは以下の点になると考えられます。

- 医療体制について事前に担当医に確認を行うなどして、連携がとれるようにする。
- 平時からのシミュレーションを行う
 - ・ゾーニングやスタッフが少ない場合の業務内容や役割・優先順位等の検討。
 - ・家族や関係機関へ連絡するタイミングや内容の検討。
- 陽性者発生時は平時と比べ、スタッフ間で共有すべき情報が多く、随時正確な情報を共有する必要がある。そのため平時と陽性者発生時のスタッフ間の情報共有の方法を検討しておくことが重要。また、施設内だけではなく、法人や関連施設との情報共有の検討をする。
- 感染対策の物品を備え、陽性者発生時にすぐに対応できるよう着脱の練習などをする。
- 認知症がある陽性者への対応について、シミュレーションなど準備をしておく。

巡回点検の際に、高齢者施設が実際に行っている感染対策や、情報共有などの工夫点をお聞きしました。ポイントとなる取り組みを集めた事例集を作成しておりますので、平時からの感染対策などにぜひご活用下さい。